



まとめ

1. 過去5年間のわが国で行われた生殖補助医療のための研究は、精子・卵子・受精卵を単独で研究するものが多く、あらたな胚を作成するものはそのほとんどが夫婦の精子・卵子を用いていた。
2. あらたな胚の作成を必要とする研究は、夫婦間以外の胚作成を含め、生殖補助医療の治療効果改善のために必要である。
3. 研究へ提供される卵子・卵巣は今後増加する可能性がある。
4. 不妊治療目的で採卵された卵子の一部（発生しないことが確認された胚・余剰胚）は患者の同意を得て研究・教育に使用されている。